

令和7年11月12日



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター 関西育種場

宍粟市指定天然記念物「御形神社のショウフクジザクラ」の里 帰り

りんぼく
ー林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

御形神社(兵庫県宍粟市)にある兵庫県固有種ショウフクジザクラの後継樹の苗木が、
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター^{りんぼく}関西育種場か
ら里帰りします。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場
(岡山県勝田郡勝央町)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、兵庫県宍粟市の御形神社から増殖の要請を受けた「御形神社のショウフクジザクラ」の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和7年11月23日(日)

新嘗祭	13時30分～14時00分	本殿
絵馬披露	14時00分～14時10分	
◎里帰り	14時10分～14時30分	儀式殿

場所：御形神社(兵庫県宍粟市一宮町森添 280)

問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場

事業責任者：遺伝資源管理課	課長	かしわぎ 柏木	まなぶ 学
担当者：遺伝資源管理課	収集管理係長	ちの 千野	れい 怜
広報担当者：連絡調整課	課長	ふじた 藤田	あきひろ 彰宏
連絡調整課	連絡調整係長	はやし 林	かつひろ 勝洋

Tel : 0868-38-5138 Fax : 0868-38-5139

本資料は、兵庫県政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 339 件の要請があり、266 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 6 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから 2 世として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹の親木は、県下最大級のショウフクジザクラと言われており、宍粟市の天然記念物に指定されています。ショウフクジザクラは牧野富太郎氏によって命名され、兵庫県の固有種として但馬地方から播磨北部にかけて分布する珍しい桜です。八重咲きの花を咲かせ、半しだれの樹形で株立ちする性質があり、古くから地域に親しまれてきました。御形神社のショウフクジザクラは旧一宮町による平成 12 年の天然記念物指定の後、徐々に樹勢の衰えが見られ、平成 26 年度には白紋羽病に罹患したため薬剤による治療が行われました。さらに令和 3 年度にはコケやシロアリ被害が確認され、樹木医の指導のもと、殺菌や駆除などの処置が実施されました。この際、将来の枯死に備え、林木ジーンバンク事業の活用が提案され、申請されるに至りました。令和 4 年 1 月 26 日に穂木が採取され、同年 3 月 25 日にヤマザクラを台木としてつぎ木が行われました。育成を経た苗木は、本年 11 月 23 日の新嘗祭に合わせて御形神社へ里帰りが行われます。

図、表、写真等



「御形神社のショウフクジザクラ」(満開時)
御形神社ホームページより引用
(<https://www.mikata-jinja.com/hanabana/>)



「御形神社のショウフクジザクラ」(採穂時)